

元捕虜の曾孫夫妻の訪問

鳴門市ドイツ館から1kmほど南に、写真にあるような一階が煉瓦造りの洋風建築物があります。これはドイツ兵捕虜中の牧畜専門家の指導のもとで牧畜を行うため、捕虜の一人が設計し、捕虜と地元の人との協力のもとで建築されたもので、「ドイツ牧舎」あるいは現在の所有者の名を冠して「船本牧舎」と呼ばれています。この建物は近代遺産の一つとして国指定有形文化財ともなっています。

さて、この牧畜専門家は名をフランツ・クラウスニツァーといい、非常に勤勉で優秀な人材でありました。そして地元の人を指導しながら、牧舎で作業をこなしていました。捕虜でありながら、時に牧舎横の家で寝泊まりすることもあったといい

ます。一種の健康保険組合ともいべき「板東収容所疾病金庫」1917年次報告には、それまで地元の牛乳は病人には飲ませることができず、わざわざ北海道のトリスト修道院から取り寄せていたものが、牛乳が彼の指導のもとで生産されて収容所に供給されるようになってからは、費用が非常に減ったと書かれています。このほかに牧舎では豚も飼育して、ソーセージやベーコンの製造をしていました。

この牧畜専門家の曾孫シュテッフェン・クラウスニツァー夫妻が、曾祖父の足跡をたどるために鳴門にやって来ました。そもそも、捕虜であったフランツ・クラウスニツァーについて詳しい研究を行ってこられた松尾展成氏にシュテッフェンが連絡を取ってきたことから始まっています。その縁もあって今回松尾氏が丸亀、鳴門、大阪などをずうっと案内、同行して



船本牧舎



F. クラウスニツァー (右)

わせて来ていただき、日独交流の一環としてイベントのどこかに顔を出していただくことにしました。そして10月23日に鳴門到着、24日から28日にかけて主に鳴門各地を巡りました。10月25日のドイチェス・フェストでは午後のイベントの最初にスピーチをしてもらいました。また、ちょうど泉鳴門市長もドイチェス・フェストに来られるということで会談もセットされ、半時間ほど和やかに歓談が行われました。

本来の目的である曾祖父関連の見学として、まず「船本牧舎」にお邪魔しました。当日は当主の船本純郎氏が、前日に退院してきたばかりであるにもかかわらず、みずから牧舎の案内をしてくれました。それはもちろん、父の故船本宇太郎氏がフランツ・クラウスニツァーから牧畜について教えを受けながら、ともにこの牧舎で働いていたという深い縁があったという背景があったからでしょうが、とてもありがたいことでした。ところで元捕

こられました。

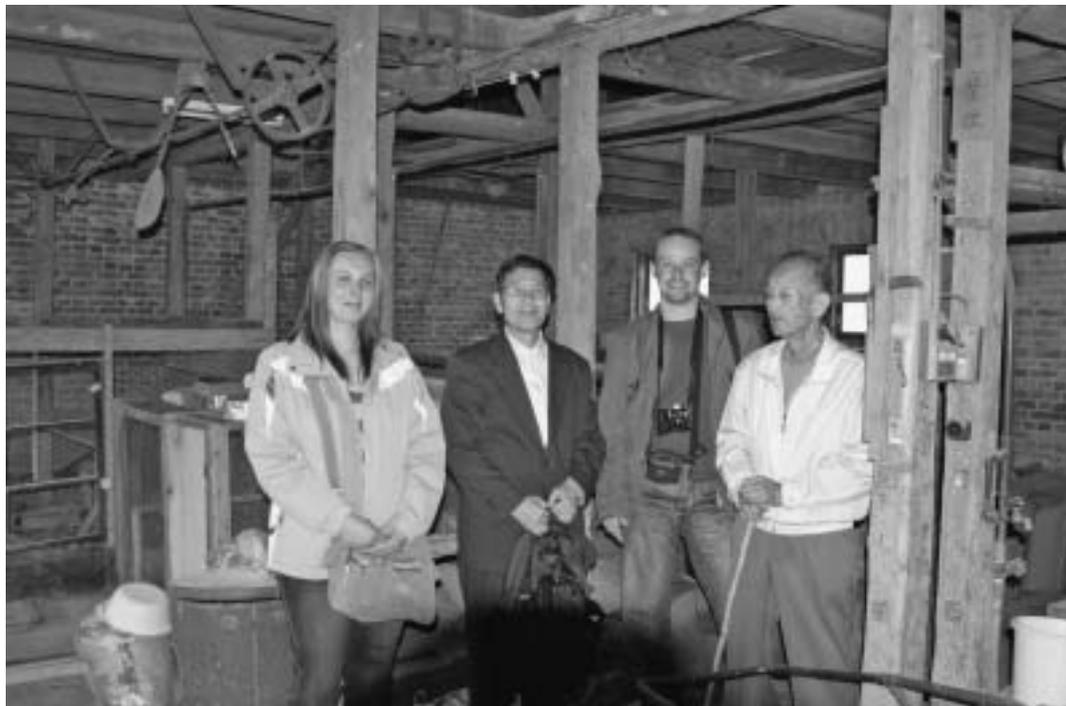
夫妻の訪日の日程については、せっきやくのことなので鳴門市ドイツ館で毎年10月末に開催されるドイチェス・フェストに合

虜フランツの息子にあたるシュテッフェンの祖父は牧畜を営んでいたのですが、シュテッフェンはその祖父に育てられて、子供の頃から牧畜に慣れ親しんでいたとのこと。今は牧畜と



シュテッフェンと泉鳴門市長

は無関係な仕事についているものの、牧舎の内部に興味深く見学しておりました。牧舎自体はあちこち手が加えられていて、当時の姿そのままではないにしても、基本的にはドイツの牧舎と同じ作り方になっているそうです。また牧舎の裏手に付属する燻製室を見つけて、これもドイツと同じだと言っておりました。その後、隣の久留島家にお邪魔をし、お茶の歓待を受けながら、牧舎に関わっていた故久留島秀一氏についてお話を伺いました。その際に収容所が



船本牧舎の中で

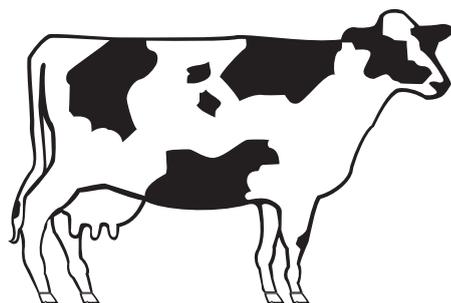
あった時期より前の牛乳生産についても、当時の写真とともに話が聞けて私たちに有益なものとなりました。

ドイツ館では、種々の史料、特に写真を見てもらいました。そして、フランス関係の写真ファイルをシュテッフェンに渡しました。興味深かったのは、私たちがフランス・クラウスニツァーであろうと思っていた人物について、はっきりそうではないと断言したことです。たとえ3世代の隔たりがあるにせよ、肉親である人物とそうではない人物とを見分ける、私たちが見逃していた特徴をすばやく見いだすことができるのだろうと感心した次第です。あるいはひょっとしたら私たち日本人がヨーロッパ人を識別するのに不慣れで、下手なだけかもしれません。

彼からはクラウスニツァー関係の写真などをもらいました。

今彼は曾祖父の残した青島時代の日記（日独戦が中心らしいです）を解読しているところだと言っていました。それが仕上がるのを私たちも楽しみにしています。板東時代の日記や手記があるのもっと嬉しいのですが、それは無いそうです。

このほかに、収容所跡地、慰霊碑、ドイツ橋といった捕虜関係の史跡などはもちろんのこと、鳴門市と徳島市周辺のいくつかの観光地など、あちこち出かけました。特に希望されていた茶会については、運良く鳴門市内で開催された裏千家徳島支部鳴交会の研究会に参加させていただくことができましたので、茶事の様子を見学できました。最後には茶菓子と薄茶までいただき、結構楽しんでもらったのではないかと思います。



「モダン青島展」

昨年10月14日から11月4日まで、ドイツ館で「モダン青島展」が開催されました。鳴門市は古くからドイツのリューネブルク市と姉妹都市であるのですが、その他に海外では青島とも友好都市提携を結んでいます。そして毎年その青島から国際交流員がやってきています。本年度は劉潔さんというとてもチャーミングな女性です。この特別企画展はその彼女の企画によるもので、出版物や生活雑貨の他に過去と現在の青島の写真などが展示されていました。過去の青島の写真については、ドイツ館所蔵のアルバムと書籍の中の写真が使われました。



39年前のテレビ放送番組

現在の鳴門市ドイツ館は1993（平成5）年に建築されたものですが、そこから500mほど北に1972（昭和47）年に建てられた旧ドイツ館があります。これは新館開設と同時に閉鎖されたのですが、建物自体は残存していて、内部には新館に移動できなかった備品や書類その他が残され、資料庫としても利用されていました。建物の傷みが進んできていることもあり、昨年秋からそれらの整理を進めてきました。それらの資料の中に、1971（昭和46）年に地元の四国放送が制作したテレビドキュメンタリー番組「板東俘虜収容所」の16mm映写フィルム一巻がありました。長年放置されていたからでしょうか、フィルムが全体に赤みを帯びて、色あせがかなり進んでいますが、それ以外の傷みはありませんでした。

ここでこの映画の内容紹介はしませんが、板東収容所周辺の40年前の様子分かるだけでなく、捕虜だったパート、マイスナー、ライポルト、クライといった方々や収容所に関わった地元の人たち、さらには慰霊碑の清掃と献花を長年行ってきた高橋春枝さんたちの映像があります。また彼らの肉声も聞かれて、とても貴重な資料だと思います。



会場で説明する劉さん



番組の一場面から、Oマイスナー氏

収蔵品紹介

今回ご紹介するのは家具です。ドイツ館には捕虜が製作した家具や捕虜ゆかりの家具や道具類がいくつかあります。その中から机と椅子をそれぞれ2つずつご紹介したいと思います。



最初は、常設展示されている丸テーブルと椅子で、捕虜の製作によるもので、丁寧な加工のなされた立派な家具です。サイズはテーブルが直径90cm、高さが70cmあります。その天板は2枚の板を接合した部分がはがれて分離しており、脚との接合部がぐらついているので、それがちょっと残念です。写真には写っていませんが、もう一つ同じ椅子があって、それは資料の

閲覧のために観覧者に実際に座っていただけるように置かれています。とても頑丈で、今でもがたつきはありません。



もうひとつの写真に写る机は、捕虜製作品展覧会で買い求めたものと伝わっています。天板の幅90cm、奥行き75cmで、高さは72cmです。折りたたみ式で、当時としては珍しいものだと思います。写真手前の椅子も同様に折りたたみ式ですが、この二品はそれぞれ違う方からの寄贈品で、別に揃いというわけではありません。

研究誌原稿募集

毎年、『青島戦ドイツ兵俘虜収容所』研究』という研究誌がドイツ館を事務局にして発行されています。今年も発行予定で、論文を募集しております。なお、今回から投稿規程が大きく変わっています。ここでは概略のみ記載します。詳細については『青島戦ドイツ兵俘虜収容所』研究』第7号をご覧ください。下記メールアドレスにお問い合わせください。

締め切り：7月31日

枚数制限：1ページあたり35字×34行で50ページまで。同一投稿者が2つの論文を投稿する場合、その合計ページ数は上記を超えてはならない。

投稿様式：MSワード・ファイルで原則邦文横組み。サイズはA5判1ページ35字×34行。

ページサイズがA4判からA5判に変更になっています。ご注意ください。

協力費：5ページ以下1,000円、6～10ページ2,000円、11～15ページ3,000円、16～20ページ4,000円、21～30ページ5,000円、31～40ページ6,000円、41～50ページ7,000円。

送付方法と送付先：フロッピー・ディスクまたはCDなどで郵送するか、電子メールで添付ファイルとして下記宛てに送付してください。

「青島戦ドイツ兵俘虜収容所研究」刊行会 鳴門市ドイツ館内
〒779-0225 徳島県鳴門市大麻町桧東山田55-2
TEL：088-689-0099 FAX：088-689-0909
E-mail: info@doitsukan.com (鳴門市ドイツ館)



2月までの主な行事と特別企画展

11月15日(日) 副総領事の来館、慰霊碑への献花

12月1日(火)～14日(月)

「ベルリンの壁崩壊並びにドイツ再統一20周年記念巡回展」

12月13日(日) シオンコンサート

12月16日(水)～1月24日(日)

奥山実秋絵画展「プロイセン地方の歴史的文化的文化財と伝説」

1月10日(日) 近藤信貴 with FRIENDS コンサート2010

1月31日(日) シンフォニア・ホルニスステンコンサート2010

1月31日(日)～2月13日(土)

鳴門の砂に描くー小さなフレスコ画展ー

これからの行事予定

3月10日(水)～22日(月)

鳴門市内小学生による平和絵画展

3月21日(日) フリーデンスフェスト

4月27日(火)～5月10日(月)

ドイツワイン紹介ポスター展

5月3日(月)・4日(火) ドイツワイン祭り

6月1日(火)～15日(火) 「ベートーヴェン」展

6月29日(火)～7月12日(月) 「2010 FIFAワールドカップ」展

7月3日(土) セタコンサート

7月27日(火)～8月9日(月) ガラス工芸展

(企画イベントにつきましては、変更する場合がありますのでご確認下さい)

👁️ 編集後記

今冬は、最近の暖冬傾向とは裏腹に寒い日が多く、雪がよく降った地方も多いようです。それでもドイツ館の裏手の植え込みにあるモクレンのつぼみは少しふくらんできて、春が近づいてきているのを予感させてくれます。

今年度は、政府の緊急地域雇用創出特別交付金をいただき、2人の方にそれぞれ半年間ドイツ館での資料整理を手伝っていただきました。おかげで懸案だった画像のデジタル化や、資料箱に収められた資料内容のパソコン入力などがかなり進展しました。ただ、それらを整頓してデータベース化が完成するのはまだまだ先の話です。(川上)